

JKANewsletter



第11号(2022年6月発行)

いつも JKA をご支援いただきましてありがとうございます。「JKA Newsletter」第 11 号をお届けいたします。

1. 巻頭言

NPO 法人日本腎臓病協会の目指す目標は、「腎臓病の克服」にあります。疾患の克服という文言からは、病因を解明し、根治薬を開発することを想起しがちです。もしそうであるならば、この目標の達成は困難かも知れません。しかしそうではないと私たちは考えています。

疾患の多くについて、本人に責任を問うことはできません。「生活習慣病」と呼称されるものにおいてさえ同様です。その様な生活習慣を余儀なくされる背景があるのが通例だからです。自らの健康維持を顧慮できないほど、余裕のもない日々を余儀なくされる人々がいます。社会における役割を実直に果たし、家族を支え続ける日々の中で自らを振り返る時間を持てなかったのが実態です。自己責任と決めつけることはできません。

疾患はすべからず不条理です。この認識に基づいて、この協会が設立されました。不条理な運命を引き受けて切実な日々を生きる人々を支え続けることが、私たちのミッションです。協会の仕事を、①CKD の普及啓発・診療連携、②腎臓病療養指導士の育成・制度運営、③産学官連携プラットフォームとしての Kidney Research Initiative-Japan (KRI-J)、④患者会、関連団体との連携に定めました。このミッションを達成するためです。

多くの人々にご協力いただき、協会の活動が維持されています。会員になっていただき、またご寄付をいただいている個人、団体各位に心より御礼を申し上げます。“If you want to go fast, go alone. If you want to go far, go together.” アフリカ遊牧民のことわざだそうです。会員各位の日々の仕事、暮らしは様々です。しかしめざす方向は一致しています。遊牧民がそうであったように、私たちも地平遠くの目標に到達できます。

腎臓病の克服という目標に視線を定め、日々活動する多くの人たちがいることを、患者さんにご家族に伝えたく願っています。“病気のあなたをひとりにしない”、という意味の表明です。このメッセージを届けることが希望を生み出し、腎臓病の克服につながるであろうと考えています。



NPO 法人日本腎臓病協会 (JKA) 理事長
川崎医科大学 腎臓・高血圧内科 教授

柏原 直樹

いつも JKA をご支援いただき、ありがとうございます。JKA の活動報告をさせていただきます。

JKA は①CKD の普及啓発・診療連携、②腎臓病療養指導士の育成・制度運営、③産学官連携プラットフォームとしての Kidney Research Initiative-Japan (KRI-J)、④患者会、関連団体との連携、を 4 本柱として活動しています。

① CKD の普及啓発・診療連携

新型コロナウイルス感染に対する緊急事態宣言が解除され、新たなワクチンが承認されたものの、感染拡大が終息するには時間を要すると思われ、まだ不安定な毎日ですが、平成 30 年 7 月に厚生労働省から発出された「腎疾患対策検討会報告～腎疾患対策のさらなる推進を目指して～」に基づいて、各ブロック、各都道府県で工夫をしながら継続した精力的な活動を行っています。本 News Letter にも各地での活動報告が掲載されていますので、ご覧ください。

普及啓発に関しては、徐々に対面形式でのイベントが開催されることも増えてきていますが、普及啓発活動におけるオンライン利用の重要性も認識されていますので、今年度も新たな普及啓発用動画を複数作成しました。これらは JKA の HP にもアップし、無料でダウンロードできますので、デジタルサイネージやオンラインを含めた各種イベント・講演会でご活用いただければと思います。さらには、講演会等で使用いただけるスライド資料も作成しました。一般向けスライドと医療従事者向けスライドの二種類を準備しましたので、ご活用いただければと思います (<https://j-ka.or.jp/ckd/download/>)。また、世界腎臓デーに合わせて、懸垂幕、ロールアップバナーといった資材を新たに複数都市に提供しました。

診療連携体制の構築に関しては、引き続き厚生労働省の腎疾患政策研究事業と共同で活動していますが、ブロック単位ではオンライン会議をうまく使いながら情報交換、好事例の横展開を行っています。また、各地の CKD 医療連携でも、行政、医師会とも連携しながら、感染状況に応じてオンラインやハイブリッド形式をうまく利用し、さらなる連携強化を進めています。

② 腎臓病療養指導士の育成・制度運営

第 5 回「腎臓病療養指導士認定試験」は 2022 年 1 月 30 日に実施され、新たに 270 名の腎臓病療養指導士が誕生し、2022 年 4 月 22 日に JKA のホームページの名簿を更新しています。第 6 回は 2023 年 2 月 5 日予定となっています。

また、厚生労働省の腎疾患政策研究事業（慢性腎臓病(CKD)患者に特有の健康課題に適合した多職種連携による生活・食事指導等の実証研究：研究代表者 要伸也先生）の CKD 多職種連携について検証するワーキンググループ（CKD チーム医療検証 WG）と連携して、多施設共同調査も行い、その結果に基づいて効果検証研究を実施中です。

今後も関連学会において継続的な研修ができるよう、「療養指導士企画」を実施していきますので、奮ってご参加ください。

詳しくは HP もご参照ください。(<https://j-ka.or.jp/educator/>)

③ Kidney Research Initiative-Japan (KRI-J)

2022年3月10日、日本腎臓病協会とアストラゼネカ株式会社は腎臓病の克服に向けた取組みのための連携・協力に関する包括連携協定を締結しました。引き続き連携を取りながら、CKD対策、研究事業を進めていきたいと考えています。

詳しくはHPをご参照ください。[\(https://j-ka.or.jp/krij/\)](https://j-ka.or.jp/krij/)

④ 患者会・関連団体との連携

コロナ禍において、患者会との連絡はかかさず取っていますが、新型コロナウイルス感染が治まってこないため、患者会と一緒に活動も再度休止し、慎重に対応を進めています。今後も患者会と綿密に連携を図り、患者目線での医療提供体制構築の方策を検討していきたいと思えます。

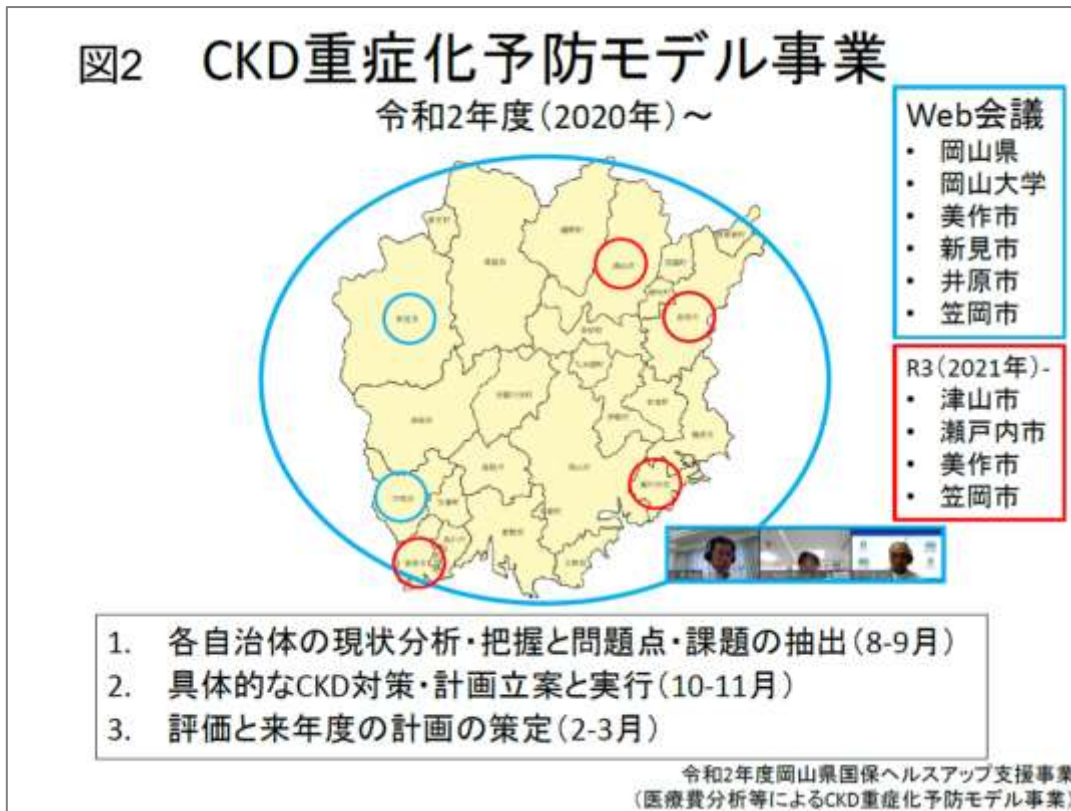
詳しくはHPをご参照ください。[\(https://j-ka.or.jp/circle/\)](https://j-ka.or.jp/circle/)

また、新たな連携も検討しておりますので、関連のある患者会・関連団体がありましたら、ご紹介いただければと思います。

以上、JKAの活動を報告させていただきました。

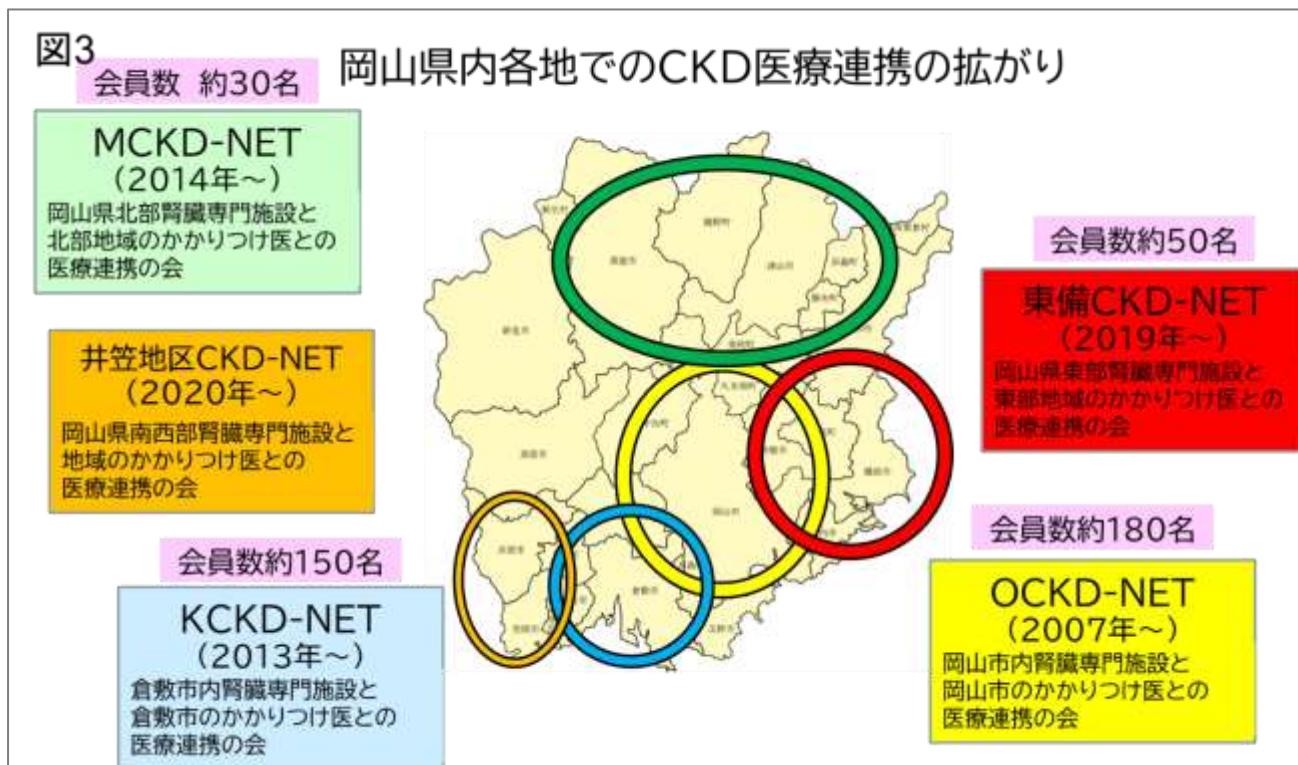
皆様からの年会費、寄付金等は上記の活動に際して、有効に使わせていただいています。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。ありがとうございました。引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

NPO 法人 日本腎臓病協会 幹事長 伊藤孝史
副幹事長 内田治仁



岡山県各地でのCKD 医療連携の拡がり

岡山市のOCKD-NETが2007年から、倉敷市のKCKD-NETが2013年から腎臓専門施設とかかりつけ医との医療連携の会が組織されている。その後岡山県北部(MCKD-NET)、岡山県東部(東備CKD-NET)、岡山県西部(井笠地区CKD-NET)が組織され医療連携活動が展開している(図3)。例えばOCKD-NETでは年に2回定期的にセミナーを開催し、CKD病診連携パス作成、専門医・かかりつけ医リストの作成と定期的な更新を行っている。またCKD管理ノートのような共通資材を活用している。



岡山県・岡山市でのCKD普及啓発活動

世界腎臓病デーに合わせて、岡山県庁・岡山市役所・岡山高島屋などでのパネル展示、懸垂幕の掲出、ロールアップバナーの設置を行っている。啓発グッズの配布・腎臓専門医による健康相談も岡山駅地下で行ってきたが、令和元年以降はCOVID-19の影響で実施できていない。その代わりにWEBによるCKD県民市民公開講座を開催し、さらに岡山県庁、岡山市役所各区役所、岡山駅構内のデジタルサイネージなどを用いて慢性腎臓病や生活習慣病との関連について動画で啓発を行っている(図4)。2022年はCOVID19感染状況を最大限配慮した部分的に対面方式を採用し、啓発グッズの配布のみを行った。



岡山県の透析患者数の現状把握

このような活動が末期腎不全の減少につながっているかどうかを評価する必要がある。岡山県医師会透析医部会の協力を得て、2017年より岡山県内のすべての市町村の透析施設において維持透析を行う患者を対象に、年齢、性別、透析導入年月日、原疾患、透析の種類、転帰、居住市町村、保険者を調査している。この解析で市町村によって年齢調整維持透析患者数が大きく異なっていることが明らかとなり、各地域の実情に合わせたCKD対策の重要な資料となっている。

岡山大学 腎・免疫・内分泌代謝内科学 和田 淳

岡山大学 CKD・CVD 地域連携包括医療学講座 内田治仁

川崎医科大学総合医療センター・内科/川崎医療短期大学・医療介護福祉学科 杉山 齊

高知県における CKD 対策事業の取り組み

高知市では高知 CKD 病診連携対策協議会を 2008 年度から立ち上げて、かかりつけ医の先生と専門医の連携を強化しています。この組織は高知市医師会と高知大学医学部、関連病院の医師で組織され、CKD 患者さんの紹介・逆紹介のシステムをスムーズにする事、毎年 3 月の世界腎臓デーに合わせた街頭キャンペーンや公開講座を開催し、CKD の啓発運動に取り組んできました。その後、高知県の行政のご理解を頂き、2012 年度からは厚生省腎疾患腎症化予防事業の拠点地区に高知県が指定され、高知県行政の組織として高知県慢性腎臓病 (CKD) 対策連絡協議会として予算を付けて頂き活動しています。その背景には高知県の人口あたりの維持透析の患者数が全国平均よりもかなり高い点や、糖尿病や心血管事故など CKD に関連する病気の頻度も全国平均よりも多い点にあります。

2012 年度より特定健診での血清クレアチニンの測定と eGFR の算出を県全体で導入し、また腎機能と検尿所見に応じた CKD 患者さんの受診勧奨をすすめる事ができました。そして 2019 年度からは厚生労働省の腎疾患対策検討会 (会長：柏原直樹理事長) に従って高知県でも高知県糖尿病性腎症重症化予防事業も立ち上がり、糖尿病性腎症の患者の啓発、病診連携、早期治療介入を行っています。

CKD 対策事業の取り組みの課題



高知県だけの問題ではありませんが、2020 年より新型コロナウイルスの対策のために、市民公開講座や街頭キャンペーンは中止にせざるを得ない状況でした。2019 年の街頭キャンペーンの写真を図 1 に示しますが、30 人以上の医療関係者と行政の方のご参加も頂き、1172 枚のチラシを市民の方に受け取って頂き、医療、栄養相談を 80 件、行わせて頂きました。街頭キャンペーンを実施できなかった 2021 年の 3 月には高知市医師会の御尽力で高知放送のテレビ枠の中で CKD 対策を特集番組として取り上げて頂きました。また新型コロナウイルスの第 5 波の感染者数がやや収まった 2021 年の 11 月には市民公開講座を開催し (会場 100 名+Web 参加多数) ました (次ページ図 2)。今後は with コロナの時代にどのように啓発活動をすすめるかが課題となってゆくとおもいます。対面活動は制限されますが、様々な方法で市民・県民の皆様への普及啓発活動をおこなってゆきたいと考えております。

図2 2021年11月に開催したCKD市民公開講座(会場約100人+Web約80人参加)

公開講座
**正しく知って、
一緒に考えよう。**

会場&
オンライン
同時開催

**参加
無料**

腎臓病とその治療

11/14日 時間 13:00~15:00 (開場12:30)
会場 ちよテラホール 高知市瑞穂町2-1-37
ちより面テラス

申し込みはこちら 締め切り
10月27日(水)必着

郵便番号、住所(ふりがな)、性別、年齢、メールアドレス、電話番号、
参加形式(会場参加またはオンライン参加)、参加人数、(複数で応募の場合は
各人の必要事項)を明記し、はがき、またはウェブよりご応募ください。

はがき 7790-4572 高知大学3-15
高知大学 医学部 社会連携課 社会連携課(社会連携課)課

ウェブ 高知大学ウェブサイト、または下記URLから応募フォームへアクセス
URL: <https://www.kochi-u.ac.jp/kyosei/kyosei/kyosei.html>





高知大学 内分泌代謝・腎臓内科学 寺田 典生

CKDと脂質制限

腎臓のフィルター役である糸球体の毛細血管に動脈硬化が進むのが「腎硬化症」であり、糸球体のフィルターが目詰まりしたり目が粗くなると、ろ過機能が落ちてしまいます。この腎硬化症を含め、腎臓の機能が慢性的に低下する病気が慢性腎臓病(CKD)ですが、CKDは脂質異常症や糖尿病など、他の病気と相互に影響し合い、発症させたり悪化させたりすることがわかっています。実際、CKDになると心筋梗塞や脳卒中を発症しやすくなり、発症した場合の死亡率が高くなることも報告されています。したがって、CKD患者さんでは、動脈硬化性疾患の進展予防のためにも、食事療法における脂質管理が重要になります。

脂肪は「質」に注意しましょう

1日の摂取エネルギーのうち、脂質の割合は20~30%が理想です。たとえば、1600kcalの場合、脂質でとるエネルギーは320~480kcal、脂質は1gあたり9kcalなので、脂質の量としては約35~50gとなります。油は揚げたり炒めたりする目に見える油だけでなく、食品に含まれている目に見えない油(菓子やパン類など)にも注意し、調理油として1日大さじ1~2杯を目安としましょう。また、脂肪の種類は、中に含まれる脂肪酸によって決まり、大きく「飽和脂肪酸」と「不飽和脂肪酸」に分かれます(下図)。

分類	おもな脂肪酸	代表的な食品	特徴		
飽和脂肪酸	パルミチン酸 ステアリン酸 など	肉の脂身、ラード、 バター、ベーコン、 パーム油、やし油など	主にエネルギー源 となる		
不飽和脂肪酸	一価不飽和脂肪酸	オレイン酸	血液中の コレステロールを減少、 酸化されにくい		
	多価不飽和脂肪酸	n-6系	リノール酸	必須脂肪酸、 血液中の コレステロールを減少	
		n-3系	α-リノレン酸	えごま油、しそ油、 アマニ油など	必須脂肪酸、 体内でエネルギーに なりやすく、 必要に応じEPA・DHA に作り変えられる
			EPA・DHA	さんまやさば、ぶり などの青魚	抗血栓作用、血液中の コレステロール・ 中性脂肪を減少、 酸化されやすい

図：おもな脂肪酸の種類と特徴

やし油やパーム油など一部の植物や、肉の脂身などの動物性食品等に多く含まれる飽和脂肪酸は、とり過ぎると悪玉のLDLコレステロールを増やします。一方、不飽和脂肪酸は、青魚や植物油などに多く含まれており、飽和脂肪酸とは逆にLDLコレステロールを減らす働きがあります。不飽和脂肪酸はさらに一価不飽和脂肪酸と多価不飽和脂肪酸に分かれ、それぞれ作用や特徴が異なります(図)。したがって、動脈硬化性疾患の進展予防のためには、飽和脂肪酸を多く含む食品を控え、青魚などに含まれる不飽和脂肪酸を多くとることが大切です。

ただし、飽和脂肪酸はコレステロールの材料となるため、あまり少ないと血管がもろくなるといった問題が出てきます。脂肪酸は、種類の違いによって働きが異なりますので、1種類だけに偏らず、それぞれの脂肪酸をバランスよくとることが大切です。調理する時は、①肉類はできるだけ脂肪分の少ないものを選ぶ、②油はオリーブ油等を利用する、③1日2食は魚や大豆製品とし、1食を肉類とする、といった点を心がけると良いでしょう。

5. KRI-J 報告

日本腎臓病協会、アストラゼネカと腎臓病の克服に向けた取組みのための連携・協力に関する包括連携協定を締結

日本腎臓病協会は事業の一つとしてアカデミアと関連企業、行政等が連携しうるプラットフォームとして「Kidney Research Initiative-Japan (KRI-J)」を立ちあげておりますが、これまでに様々な企業の皆様と共同事業を進めております。

本号では、2022年3月10日の世界腎臓デーにおいて、日本腎臓病協会とアストラゼネカ株式会社（本社：大阪市北区、代表取締役社長：ステファン・ヴォックスストラム、以下、アストラゼネカ）が締結した「包括連携協定」について報告申し上げます。



本協定は日本腎臓病協会とアストラゼネカが、相互に連携し、腎臓病の克服に向けた取組みを通じて、国民の健康増進に寄与することを目的としています。

柏原理事長より、「生活習慣の変化、高齢化を背景に『腎臓病』が増加しています。腎臓病は脳卒中、心臓病、認知機能障害とも関係しており、国民の健康寿命を損なう要因にもなっています。その克服には、医療者、行政、市民が連携して、総力を挙げて取り組む必要があります。日本腎臓病協会は連携の核となり、プラットフォームとなるものです。アカデミアと関連企業、行政等が連携しうるプラットフォームのほか、患者会・関連団体との連携を深めていくことが重要となります。今回の包括連携協定が、従来の産官学の連携に加え、患者会・関連団体との連携を深めていく機会となれば幸いです」と、今回の協定締結の目的についてお言葉がありました。

一方、アストラゼネカ株式会社の代表取締役社長ステファン・ヴォックスストラム様より、「日本腎臓病協会と、慢性腎臓病をはじめとした疾患啓発について協働できることを非常にありがたく思います。我々のミッションは、サイエンスの限界に挑戦し、人々の生活を変えるような医薬品を届けることです。そして、私たちは、日本腎臓病協会と腎臓病を克服するうえで意義あるパートナーになるべく意欲的に取り組んでまいります。今回の協定を通じ、ひとりでも多くの腎疾患に苦しんでいる患者さんの健康増進に貢献できれば幸いです。これまでの日本の先生方の多大なご尽力に感謝いたします」とお言葉を賜りました。

今後両者は、慢性腎臓病に関して様々な疾患啓発活動を進めていく予定としています。

(文責：西山 成)

6. 関連団体連携 第11回 ネフローゼ症候群患者会

～ネフローゼ症候群について、親の立場から～

今年でネフローゼ歴4年となる、小学5年生の息子を持つ母です。患者家族の立場から、療養生活で大切にしていることや困りごと、要望などについてお話をさせて頂きたいと思います。

はじめに、親としてネフローゼになった我が子を家庭で支援していく事は困りごとの連続でした。それらを解決する為に医学書を読んでも文献には病気の実際や治療については書かれておりますが、この薬を飲んだら実際にどうなるのか、学業や就職はどうなるのかネフローゼになった人達が将来どのように暮らしていけるのか等成長発達やライフステージにおける実際や対処法、心のあり方等について具体的に記されているものは多くないと感じました。

そのような中で、ネフローゼと共に生きるためのヒントをくれたのは、尊敬する主治医とネフローゼ患者会の情報発信、SNSを通じた患者さん達との交流でした。10万人に5人という少ない割合で発症する疾患にとって、患者同士の実際を知る事は、困りごとの解決や将来の見通しを持つことに繋がる貴重な体験でした。そうした中で、親の心持ちは病気の完治を目指すというよりもネフローゼと共にどう生きていけるのかへと変化していきました。

皆様と体験を共有する中で、病気そのものよりも病気があることで、生活や学業、やりたいこと、就業、人間関係等に支障が出る事の方が多いように感じました。この病気は体の中から無くすことはできないけれど、どう工夫すると暮らしやすいのか、どう交渉すると学校での学びは保証されるのか、どのようなスキルと戦略があれば、望むような職につくことができるのか、病と共に懸命に生きていく方々の実際の声を聞いて、初めて長い療養生活に希望を持って、安心して生きていけるようになりました。

治療を重ねる中で、ネフローゼとは共存できるのかも、と少しずつ思えるようになりましたが、未だ解明されていない事も多くだからこそ、この病と共に生きていく「生き方を学ぶ」ことがとても重要なのだと感じました。ですので、今私の望むことは、患者の集合知をまとめたガイドブックの様な、病気と共に生きるヒントや困りごとの乗り越え方等、情報の共有と整理です。

そうすることで、いつかネフローゼになってしまった方々が、莫大な情報収集だけで疲弊し不安を感じるのではなく、そのヒントを元に自分らしい人生を歩んでいけるのではないかと考えています。



「この薬が無かったら、今の僕はいないから」と毎日薬に感謝し内服を頑張っています。将来の夢は薬剤師だそうです。

～ネフローゼ症候群について、僕が思うこと～

僕はネフローゼよりも薬の副作用の事で困っていることがあります。ネフローゼの薬で大変なのは、毎日決まった時間に飲むことです。あとは、体力が落ちることだと思います。体力が落ちてしまうので、皆と同じように走ったりすることが大変です。だから朝走ったりトレーニングをするようになりました。でも、あまり激しい運動はできません。動きすぎて転ぶだけで骨を折る可能性があるから気を付けています。僕はみんなと遊びたいのでそこが不安です。僕は皆と思いっきり遊びたいです。なので体力が落ちたり骨が弱くならないような薬が欲しいです。今大切にしていることは、今の時期のコロナ対策です。マスクなしであそんでるときはみんながちょっと不安です。



初発入院時は、ひとりぼっちの院内学級でした。そこで書いた鯉のぼりです。

今は入院中もオンライン授業で学校と繋がれるので、クラスメイトの顔を見ながらリツキサン治療を受けることができました。

(ペンネーム ポケモンマスター10歳)

Zoom ウェビナーによる
オンライン
開催
(参加無料)

市民公開講座

高齢腎不全患者の ための 保存的腎臓療法

—conservative kidney management (CKM) の考え方と実践—

事前登録制
定員
500名



タブレット・スマートフォンは
こちらから

本邦では、医療福祉の発展もあり高齢化が進行しています。高齢化は長寿化であり、本来慶賀すべきことです。しかしながら、高齢化に付随して腎不全、心不全、認知症が増加しています。当然、これらが重複することも少なくありません。

腎機能が廃絶し腎不全に至った場合にも腎代替療法（血液透析、腹膜透析、腎移植）が用意されています。本邦の腎代替療法はいずれも世界で最高レベルにあります。

高齢腎不全患者さんは、さまざまな合併症をもっています。医学的・社会的な諸理由で透析導入の見合わせ、中断を余儀なくされる場合もあります。その場合、腎不全に由来する諸症状への対応、苦痛の緩和、全人的ケアが必要となりますが、標準的な対応法（保存的腎臓療法）は確立されていませんでした。

この度、日本医療研究開発機構（AMED）長寿科学研究開発事業「高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始 / 見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」の成果をまとめ、「高齢腎不全患者のための保存的腎臓療法—conservative kidney management (CKM) の考え方と実践—」を発売する運びとなりました。透析の見合わせ、中断となった高齢腎不全患者さんに対して実施される治療・ケアの在り方を示したものになります。

市民公開講座では本書の概要について解説いたします。関心をお持ちの全ての方のご参加をお待ちしております。

終了しました
資料はこちらから



2022年 6月 5日(日) 13時~15時

開会の辞 柏原 直樹 川崎医科大学腎臓・高血圧内科学 教授

司会 岡田 浩一 埼玉医科大学腎臓内科 教授

講演① CKMの基礎
守山 敏樹 大阪大学キャンパスライフ健康支援・相談センター 教授

講演② わが国の透析見合わせ、中断および保存的腎臓療法(CKM)の実態調査
酒井 謙 東邦大学医学部医学科腎臓学講座 教授

司会 中元 秀友 埼玉医科大学総合診療内科 教授

講演③ CKMにおける緩和ケアの課題
丹波嘉一郎 自治医科大学附属病院緩和ケア部 教授

講演④ 意思決定支援のあり方—臨床倫理の視点から
会田 薫子 東京大学大学院人文社会系研究科 特任教授

閉会の辞 中元 秀友 埼玉医科大学総合診療内科 教授

ご参加には事前登録が必要です。事前登録は2022年5月中旬以降より「川崎医科大学腎臓・高血圧内科学」のサイトにて受付いたします。(参加無料)

<http://www.kawasaki-jinzo.net/>

事前登録に関するお問い合わせは、ckm1@outlook.jp までメールにてお願いいたします。

CKD啓発動画の作成



[CKD啓発動画\(ミルクボーイ\)](#)



[CKD啓発動画\(JKA\)](#)

学会案内

第 65 回日本腎臓学会学術総会

会期：2022 年 6 月 10 日(金)～12 日(日) (兵庫県)

<http://jsn65.umin.jp/>

第 67 回日本透析医学会学術集会

会期：2022 年 7 月 1 日(金)～3 日(日) (東京都)

<http://www.congre.co.jp/jsdt2022/>

第 7 回腎移植内科研究会

会期：2022 年 9 月 25 日(日) (高松市/web)

<http://rtpa.jp/>

ISH2022 KYOTO (The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension)

会期：2022 年 10 月 12 日(水)～16 日(日) (京都市)

ish2022.org

第 25 回 日本腎不全看護学会学術集会/第 7 回アジア腎不全看護シンポジウム

会期：2022 年 10 月 15 日(土)～16 日(日) (名古屋市)

<http://www.congre.co.jp/jann-anns2022/>

第52回日本腎臓学会東部学術大会

会期：2022年10月22日(土)～23日(日) (東京都)

<https://www.m-toyou.com/jsneast52/>

第 16 回 日本腎臓病薬物療法学会学術集会

会期：2022 年 10 月 29 日(土)～30 日(日) (長崎市)

<http://www.congre.co.jp/jsnp16/>

第52回日本腎臓学会西部学術大会

会期：2022年11月18日(金)～19日(土) (熊本県)

<https://www.kwcs.jp/jsnseibu52/>

第 26 回 日本病態栄養学会年次学術集会

第 56 回日本臨床腎移植学会

会期：2023 年 2 月 10 日(水)～12 日(金) (東京都)

第 13 回日本腎臓リハビリテーション学会

会期：2023 年 3 月 17 日(土)～19 日(日) (埼玉県)

編集後記

この度は「JKA Newsletter 第11号」に執筆の機会をいただき、編集長の祖父江理先生、編集委員の皆様にご感謝申し上げます。執筆させていただいている今まさにこの瞬間にも世界では罪のない一般市民が被害にあわれているニュースが報道されています。数か月前まで平和だった場所がこのように悲惨な状況となりうることに戸惑いと困惑を覚える日々です。また、新型コロナウイルス感染症も未だ収束することなく不安な日々が続いております。

そのような中でも我々は進んでいかなければなりません。JKAの4本柱からなる活動を通してより一層、医師や医療従事者、患者、行政、製薬および医療機器関連企業が連携を深め、CKD診療の発展を目指して力を注いでいきたいと思っております。

早く世界に明るいニュースが届くことを願い、編集後記とさせていただきます。

(大分大学医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座 福田顕弘)

Information(お知らせ)

JKAの正会員・賛助会員、JKAへの寄付を募集中です。



日本腎臓病協会は2018年6月に設立されたNPO法人です。腎臓病の克服を目指し連携のプラットフォームとなるものです。正会員の年会費は2,000円、入会金1,000円です。寄附も随時受け付けています。

また、賛助会員として医院・病院・企業からも入会を受け付けています。ぜひ、お知り合いの方にも、JKAの活動をご紹介ください。

[日本腎臓病協会への入会・寄附のお願い](#)



NPO法人 日本腎臓病協会(Japan Kidney Association)

〒113-0033 東京都文京区本郷3-28-8 日内会館 一般社団法人日本腎臓学会内

Tel. 03-5842-4131 Fax. 03-5802-5570

ホームページ <https://j-ka.or.jp/>

Facebook <https://www.facebook.com/JapanKidneyAssociation/>

※Facebookでは随時最新情報を発信しています。ぜひこちらもご覧ください。

かけがえのない日々を大切に生きるために
We lead the fight to prevent, treat, and cure kidney diseases